

メデイカルはこだて

Medical Hakodate 《2019 September》

函館・道南の医療・介護・福祉の雑誌

vol. 71

特集

病院に新しい風を吹き込む8人の医師 専門性を発揮した質の高い医療を提供



島根県立中央病院副院長から高橋病院へ 整形外科とりハビリテーション科を担当



高橋病院整形外科・リハビリテーション科

齊鹿稔

島根県内で唯一の高度救命救急センターなど、高度で専門的な医療を担う県の基幹的病院である島根県立中央病院（島根県出雲市）の副院長を務めた齊鹿稔医師が、今年4月から高橋病院（高橋肇理事長）の整形

外科・リハビリテーション科の担当医師として勤務している。

鳥取県生まれの齊鹿医師は理系科目が得意だったことから医学部受験を志し、山口大学医学部へ進学した。「外科系の診療科に興味を

医療技術局長、医療局長、入退院支援・地域医療連携センター長、副院長などさまざまな役職を歴任してきた。「病院の管理職となつてからもリハビリテーション科でリハを担当していましたが、リハ科は急性期総合病院における高度最新医療の中で各診療科の専門的治療と平行し、主として急性期から亜急性期のリハを行っているりましたが、特に急性期リハが多かったです。私が担当した運動器リハは脳血管疾患等リハに次いで多く、年間の患者数は600人を超えていました」。

持っていました。が、医学部の先輩に誘われて整形外科医になることを決意しました。昭和53年大学卒業後は山口大学医学部整形外科に入局。関連病院にて診療経験を重ね、山口大学医学部附属病院では一般外科に加えて脊椎外科を専門とした。

定年退職後は県外で臨床を続けることを望んできた。「島根県立中央病院では十分に役割を果たしたという自負もあり、自分の持っているスキルを発揮できる新たな場所を探していました。リセットする意味でも関西を超えた地域を考えていて、関東地区の千葉や埼玉などは有力な候補でしたが、動線を考えてと両館は利便性が高かったです」。毎週火曜から金曜まで診療を行い、整形外科外来と通所リハビリを担当している。

同病院のリハビリテーション科は理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などのリハビリスタッフが70人を超える。「当院のリハビリスタッフは若い人が多いのですが、優秀なセラピストが揃っています。熱意があり、真摯に取り組んでいる姿勢も高く評価できます。整形外科の診療では、患者の話にしっかりと耳を傾けます。高齢者が多いので、丁寧な説明も心がけています。毎週、島根県から飛行機で通っていますが、移動はまったく苦にはなりません。それと両館の住み心地はとても良いですよ」。

さいかみのる
昭和53年山口大学医学部医学科卒業。
山口大学医学部附属病院や大学関連病院を経て、平成7年島根県立中央病院整形外科長に就任。中央診療部長や外科診療部長、次長、医療技術局長、医療局長、入退院支援・地域医療連携センター長、副院長などの役職を歴任。
平成31年4月高橋病院に着任。日本整形外科学会整形外科学専門医。